

子どもの育ちをつなぐ

～暮らしの場や養育者がかわるときに大切なこと～

本研究会では、平成25年度のテーマとして、措置変更などにより子どもの暮らしの場や養育者がかわるとき、いわゆる「移行期」において大切なことに焦点を当て、子どもの育ちをつなぐために養育者が大切にしなければいけないこと、気をつけなくてはならないこと（子どもにとって“して欲しくないこと”）について考えた。いわゆる「移行期」には様々なパターンが考えられるが、今年度は年長児童の社会的自立ケースを除いた、「家庭から施設・里親への措置」「施設から施設・里親間の措置変更」「施設内での養育者の変更」などの移行期を対象とした。

1. 暮らしの場や養育者がかわるときに養育者が大切にしなければいけないこと・気をつけなくてはならないこと

まず、これまでの社会的養護における移行期の現状と課題を考え、養育者がかわる前後のケアが子どものニーズに合ったものとなるために、養育者が大切にしなければいけないこと、気をつけなくてはならないことをまとめることとした（参考資料1，2）。

これまでの移行期の現状と課題 子どものニーズよりも施設等のニーズ優先？

2つの居場所が同時に失われ、新たな2つの居場所に対応するようなくみ



参考資料1

これからの移行期のあり方 ＝子どもの育ちをつなぐ＝

移行前の2つの居場所を大切にしながら、分断されことなく、スモールステップシステムによって、継続的に新たな居場所に1つずつ適応するようなくみの確立



参考資料2

方法としては、研究会の委員から各施設・機関が行っている実践およびそこから得られた知見をもとに、「暮らしの場や養育者がかわる前にやるべきこと」「暮らしの場や養育者がかわった後にやるべきこと」「暮らしの場や養育者がかわるときに気をつけなくてはならないこと」の3つについてカードに書き込み、『セブクロス法（カール・E・グレゴリー）』を用いてグループごとに収集し、グループ討議をしながらまとめた。

結果として、上記の3つについて重要度順に以下のようにまとめられた（[参考資料3](#)，[4](#)，[5](#)）。

「暮らしの場や養育者がかわる前にやるべきこと」

I. 子どもとの共感・気持ちの理解、II. 子どもの意見表明の尊重、III. 子どもへの説明・伝達・情報提供（子どもが見通しを持てるように）、IV. ライフヒストリーを大事にする、V. 次の養育者との引きつぎ・伝達共有、VI. 子どもとの別れを支える、VII. その他（保護者への説明など）

「暮らしの場や養育者がかわった後にやるべきこと」

I. 子どもへの説明、II. アセスメントと適切なケア、III. 養育者間の連携、IV. 環境を整える、V. 子どもの歴史、VI. 移行期の養育者との交流、VII. その他（統合支援など）

「暮らしの場や養育者がかわるときに気をつけなくてはならないこと」

I. 過去の生活・養育者の否定、II. 移行に関して適切とは言えない言動（移行についての誤った意味付け等）、III. 大人側の理由・都合の強要、IV. 説明不足、V. 移行の説明時期について、VI. 変更（移行）への抵抗、VII. その他（子どもの発達年齢に応じて意思決定に参加する）

2. 当事者の思い

さらに、社会的養護の当事者からも「暮らしの場や養育者がかわる前に『して欲しいこと』『して欲しくないこと』『暮らしの場や養育者がかわった後に『して欲しいこと』『して欲しくないこと』について、当事者の思いをカードに書いてもらい、重要度による優先順位は決めずに委員が分類を行った（[参考資料6、7](#)。当事者からいただいた意見を原文のまま掲載）。

3. 研究会からのメッセージ

措置変更などにより子どもの暮らしの場や養育者がかわるとき、いわゆる「移行期」において、子どもや保護者が安心して生活を送ることができるような養育者間の引き継ぎが求められています。具体的には、①関係者が一堂に会したケース支援会議の実施により情報や支援内容を確実に引き継ぐこと、②今まで受けてきた支援を継続的に受けられること、③引き継ぎ後も定期的かつ必要に応じた見守り支援を行うことなど、子どもの気持ちに寄り添い、丁寧な引き継ぎと支援をつなげていくことが重要です。

本研究会では一年間にわたり、こうした暮らしの場や養育者がかわるときに大切なことについて検討を重ねてきました。その成果を集約しまとめたものが参考資料です。これらの資料は、あくまでも検討段階のものであり、その点について十分ご理解いただいたうえでご活用下さい。社会的養護における子どもの最善の利益を考慮した移行期のケアの一助となれば幸いです。

最後に、今年度の研究会を通して認識した大切なメッセージの一つは、子どものニーズに反するような養育者の交代（人事異動や退職など）や、それにとまなう転居を優先せざるを得ない場合、子どもには十分な説明と、気持ちを理解したうえでより丁寧な引き継ぎやケアが必要であるということです。具体的には、養育者の交代を子どもたちが「自分のせいだ」と考えてしまうことのないよう、おとなから「あなたのせいではない」ことを伝え、子どもに謝るところから次の養育者に引き継いでいくことが大切だということです。